

告発する博物館 ——水俣病歴史考証館

ひら い きょうのすけ
平井 京之介 民博 民族文化研究部



水俣病歴史考証館

水俣病とは何か。伝染するのだろうか。水俣湾の魚を食べても大丈夫か。

現在でもこれだけテレビや新聞を賑わせていながら、水俣病について正確な知識をもつ人は少ない。和解のプロセスが進む一方で、いまだに差別や偏見がある。

NGOの博物館

水俣病歴史考証館は、展示を通して、水俣病の歴史と教訓を伝えることに取り組んでいる。運営するのは、財団法人水俣病センター相思社。水俣病患者の生活支援と、水俣病事件の調査や教育普及活動をおこなうNGOだ。

告発する展示

病気や差別、運動がテーマなだけに、写真と解説パネルが中心で、モノによる展示は少ない。しかし、以下の四点は必見である。水俣病の原因を突き止めた実験で、実際に使われていた「ネコ実験の小屋」。工場の排水口付近で採取された高濃度水銀を含むへドロ。黒字に白で「怨」と書かれた患者運動のシンボル、通称

「怨の旗」。水俣のバイブルといわれる小説『苦界浄土』の自筆原稿。いずれも独特のアウラをもっている。

患者の立場から水俣病事件の歴史を描く。同時に、加害者の意図的な隠蔽や不法行為を告発する。こうした明確なスタンスは、科学的、中立的な展示を謳う「水俣市立水俣病資料館」と対照的である。水俣を訪れたら、ふたつの博物館をぜひ見比べてほしい。

水俣への窓口

同じ敷地内に、NGOのオフィスや資料室、集会所、宿泊施設などがあり、センター全体が水俣への恰好の窓口になっている。現在、四名の常勤職員がおり、訪問者に対してさまざまなサービスをおこなっている。水俣病関連資料の提供、水俣のまち案内、水俣名産品の販売、体験談を語ってくださる患者の紹介など。けっして愛想がよいとはいえない人たちが、親身になって相談に乗ってくれる。

五年ほど前から、わたしは年に何回か通っている。博物館の新しい機能をここで探しているのだ。



職員による展示解説



展示の一部



ネコ実験の小屋